

<研究ノート>

仏教民俗としての念仏踊り¹⁾

坂本 要*

Nenbutsu-Dance and Folk Buddhism

SAKAMOTO Kaname *

1. 日本的仏教と仏教民俗

古い話になるが私は1986年（昭和61年）に「日本的仏教と仏教民俗」という題で小論を書いている。仏教民俗の定義を書いたものがあるが、基本的には現在でもこの考えに変わりはない²⁾。この論は80年代までの日本宗教や日本仏教に関する理論的枠組みを通観したうえで、日本的仏教もしくは仏教民俗に混交宗教（シンクレティシズム）論を援用したもので中牧弘充氏の土着主義的宗教論による³⁾。簡単に述べると次のようになる。仏教はインドで発生し、中国・朝鮮を経由して日本に流入した外来宗教であり、これは歴史的に見て疑いようがない。一方この仏教流入以前になんらかの宗教、明確な組織や体系をもったものでない宗教もしくは信仰があったことも確かである。柳田国男はそれを固有信仰といったが、それが固有であるかどうか、また固有とは何を指すのかは不明確であり、高取正男氏の説によると⁴⁾柳田が固有とした神道そのものも、陰陽道・仏教の影響を受けた混交宗教（シンクレティシズム）であるとしている。それはともかくとして仏教とそれ

以前からある宗教の混交によって、日本宗教はなりたっている。図で考えて見ると⁵⁾仏教と仏教流入以前の宗教の二つの円がぶつかりあい、一部重なりあうという図を描くことができる。重なった部分が日本の宗教ということになる。これを仏教と民俗という二つの円で考えてみると重なった部分が仏教民俗となるのであるが、中牧弘充氏はこれに第三の円を考え土着主義的宗教としている。ぶつかった二つの円から第三の円が飛び出す、別の体系、独自の体系を持つ第三の円を考え、シンクレティシズムをより動的にとらえている。私もこの説には賛成で、この第三の円すなわち二つの円の習合から飛び出し独自の体系を持ったものが、日本の宗教であり、仏教と民俗の対比で言うならばこれこそが仏教民俗である。歴史的経過から見るとこれが仏教でこれが民俗だと、その習合過程を追うことができるが、現象としてあるのは仏教民俗として独自の体系を持つものである。このような観点に立たないといつまでも起源論に終始し、ことの本質すなわち日本人の宗教とは何かには到達しえないといえる。

* 情報コミュニケーション学部情報メディア学科、Tsukuba Gakuin University

2. 踊り念仏と念仏踊り

次に念仏を例に仏教民俗なるものを考えてみよう。

これから述べるのは日本で独自に発達し、踊りをともなった念仏が出現した意味である。

五来重氏の論考に「踊り念仏から念仏踊りへ」⁶⁾がある。踊り念仏は僧の踊る念仏で空也や一遍の踊りをともなう念仏を指す。念仏踊りはそれが民間習俗に習合し、風流踊りや盆踊りの中で念仏をともなう踊りをいう。「念仏」に力点を置いたものが「踊り念仏」で、「踊り」に力点を置いたのが「念仏踊り」である。前者の「踊り念仏」がさまざまな民俗的要素を取り入れながら後者の「念仏踊り」を生成する。その基底には鎮魂という呪術的要素があるとする論である。

これを仏教と民俗で対比させると、念仏は仏教で踊りは民俗ということになる。仏教儀礼の念仏には行道まではあっても、踊りまではない。踊り念仏・念仏踊り論は何故に念仏に踊りが伴うようになったかが問題になる。その前提に普通仏教では僧は座して禅定に入るもので歎喜踊躍して踊るものではないとされるからである。それゆえに踊る意味を鎮魂、鎮送、反閤等の仏教教理以外の民俗的観念の中に見出して説明する。さらにこの踊るといふ身体表現は巫女舞や神楽の魂振りや魂遊びに淵源させることができるとする。これが折口信夫・堀一郎・五来重等につながる一連の説である。踊り念仏は仏教側の教えからすると「死者の供養」「仏の功德」のために踊るとされているが、上記のような別の隠された意味があり、その隠された意味を演じる念仏聖等の一群の「民間宗教者」がいたとするのが民俗学からの見方である。このように仏教と民俗を分けて民俗から仏教を見るといふのが仏教民俗の立場で、仏教民俗の必要性はこのような解釈の可能性にかかっている⁷⁾。

3. 三信遠の念仏踊りと若狭六斎念仏

具体的に筆者が調査した事例で見てみよう。一つは天竜川中流域の三信遠国境地区と言われるところに分布している念仏踊り⁸⁾、一つは若狭に分布している六斎念仏⁹⁾でいずれも発表もしくは報告として公表しているもので、概略を説明する。

三信遠の念仏踊りには愛知県側に三河の念仏おどり・はねこみ・放下・笹踊りがあり、静岡県側に遠州大念仏・水窪大念仏・森の子供念仏が、また長野県側に和合の念仏踊りのある他掛け踊り・樽木踊り・おねり等念仏踊りに類似した芸能がある。分布一覧は別表として提示した。

これらの念仏踊りはだいたい念仏、和讃、踊りの三部構成から成り立っている。

念仏は立って唱える「立ち念仏」が多く唱えは「ナムアミダブツ」の繰り返しで「四遍」等の名が残っていることから六斎念仏に元を求めることができる。詠唱念仏と分類されている。一方長野県の向方ではしゃがむ念仏があり、伊勢おんない念仏や渥美半島田原町・一色でも見られる唱え方である。このような例は筆者の調査では若狭六斎念仏や九州平戸六斎念仏にもあり、高野山の石碑にきざまれた「居念仏」につながる唱えと思われる。この詠唱型の念仏を唱えるときは踊らないのが原則で、和讃や踊りはこの後に行われる。

和讃を唱えるとき、信州や三河北部ではからだを左右にゆすり、その後、太鼓と鉦をたたきながらの輪踊りに移る。三河南部や遠州では和讃をとえながら太鼓をたたいて輪になる。このとき「かさぶく」といって赤い大きな日傘に幔幕を垂らしたものを出す所を各所で見かける。これに盆灯籠や戒名をつけるところから死者の象徴と考えられる。

和讃の文句は次のように分類される。

- <鎮め> 東西鎮まれお鎮まれ
- <ほめ歌> 庭ほめ 寺ほめ 家ほめ

＜供養＞ 親・子・妻・産死者

＜その他＞ 鞍馬寺・高野山・善光寺

この輪踊りで終わるところもあるが三河南部の念仏踊りや放下^{ほうか}では「はねこみ」といって激しく跳ね込む動作を繰り返したり、片足跳びをしたりする。愛知県の田峰^{だみね}や名号^{みょうごう}のものが有名であるが、長野県の和合も同じである。

念仏踊りの間もしくは後に盆踊りといって男女の輪踊りや掛け合いで手踊りをするとところは多い。これは念仏踊りとは異なる。

若狭の六齋念仏の構成は念仏と六齋に分かれている。念仏は詠唱念仏で唱えるだけであるが、六齋とは六齋用のにぎり太鼓を叩くことで踊る所が多い。

一言で六齋念仏というが、若狭の例を見ていくと念仏と六齋は別であるとしたほうがよい。若狭市瓜生に伝わる「念仏縁起」にも「念仏及び六讚（六齋）の二種よりなる」とある。念仏は四遍・白米に代表される鉦のみで叩く念仏、正座もしくはしゃがんで唱える。概して年寄り等の年長者で羽織を着る等威儀を正して行う。六齋は太鼓で叩く念仏であるがナムアマダブツの念仏はないかわずかしか唱えられず、念仏帳には「ツンツン」「テンテン」という符丁で記されている。六齋はこの太鼓をたたくのみのものと和讚多くは「融通念仏和讚」を唱えながら太鼓を叩くものの二部構成になっている¹⁰⁾。

このように念仏踊りは念仏と踊りが一体になっているわけではなく詠唱型の念仏と太鼓踊りの二段階、はねこみを加えると三段階になる。後半の踊りは輪踊りで風流踊りにつながるものである。「かさぶく」を風流踊りの中央や先頭にたてる風流傘としてみると風流踊りに酷似してしまう。事実長野県側の念仏踊りはそのまま掛け踊り・樽木踊り・おねりの分布地区につながる。また徳島県の神踊り

は盆踊りをそのまま翌日神社で神踊りとして踊る等の例から念仏踊り・風流踊り・念仏踊りが連続していることをうかがわせるものである。

4. 仏教民俗としての念仏踊り

以上三信遠の念仏踊りと若狭の六齋念仏を見てのとおり分析としては念仏と踊りが合わさって念仏踊りがあり、その元として風流踊りの輪踊りが想定できることを述べた。しかし念仏でなぜ踊るのかは依然解決されていない。

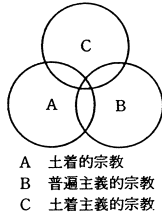
しかし、念仏でなぜ踊るのかには、以下のような解答も可能である。念仏とは元來仏を頭の中に念じて描くことで、これを観想念仏という。ところが念仏が中国・日本と伝播するに過程で阿弥陀仏の名を念ずる名号信仰、さらにそれを口で唱える口称念仏、名号を多く唱える多念の念仏、大声で唱える高唱念仏、そして念仏で踊るといふ念仏の肉声化、身体化を深めていく。念仏の中に自己を解消するような念仏が成立する。一遍の念仏がそうである。教理や観念の文字の仏教から踊りという身体化された信仰の中で自己を開放する。

念仏踊りの本義はここにある¹¹⁾。仏教をこのように儀礼行為や身体技法から解釈していくことも可能である。民俗を非文字文化とか口承・身体伝承の文化と規定するならば、このように仏教における非文字伝承・身体伝承の中に意味を解明するのが仏教民俗といえよう。そこでは仏教と民俗は分けることはできない。言えるのは仏教民俗としての念仏踊りである。

注

- 1) この文は2007年10月の日本民俗学会の第59回年会のシンポジウム「仏教と民俗」のパネラーとして口頭発表した内容を基にしたものである。

- 2) 坂本 要「日本の仏教と仏教民俗」『歴史手帳』No.14-10 名著出版 1986
このシンポジウムの冒頭、豊島修氏の基調報告に、拙論の引用があったことを受けている。
- 3) 中牧弘充『神々の相克』1982 新泉社
- 4) 高取正男『神道の成立』1979 平凡社
- 5) 図示すると次のようになる。



- 6) 五来重「踊り念仏から念仏踊りへ」『国語と国文学』1965・9 東京大学国語国文学会
- 7) 「2、踊り念仏と念仏踊り」の概要は2007年10月日本

民俗学会第59回年会シンポジウム「仏教と民俗」で発表。

- 8) 坂本 要「西浦の大念仏と五方」『東京家政学院短期大学紀要』No.5 1995
坂本 要「水窪の大念仏」『東京家政学院短期大学紀要』No.6 1996
発表「しゃがむ念仏－三信遠地方の大念仏と念仏踊り－」風俗史学会大会1997
発表「三信遠念仏踊りの構成」民俗芸能学会114回研究会2007
- 9) 坂本 要「若狭の六斎と念仏」『まつり』No.66 2004
- 10) 坂本 要「若狭の六斎と念仏」のまとめ
- 11) 柳宗悦『南無阿弥陀仏』1955 新版1960 春秋社 唐木順三「一遍上人」『無用者の系譜』筑摩書房 1960 を参照。

(別表)

三信遠念仏踊り関連芸能一覧

名称	県名	市町村名	地区名	場所	行事日
1 梨久保樽木踊り	長野県	泰阜村 (やすおか)	梨久保	公民館～池野神社	10月9日
2 温田樽木踊り	長野県	泰阜村 (やすおか)	温田 (ぬくた)	原田家～南宮	8月22日
3 和合大念仏	長野県	阿南町	和合	宮下家・熊野社・林清寺	8月13日～16日
4 日吉お鞆祭り	長野県	阿南町	日吉	伊勢八幡社・金光宅	4月29日
5 日吉念仏踊り	長野県	阿南町	日吉	阿弥陀堂	8月13日
6 新野盆踊り	長野県	阿南町	新野	市神～瑞光院門前	8月13日～17日
7 壳木村おねり	長野県	壳木村	壳木	役場・大田稲荷・宝蔵寺	3月20日
8 下栗掛け踊り	長野県	上村 (かみむら)	下栗	十五社明神前	8月15日
9 平岡満島神社太鼓踊り	長野県	天竜村	平岡	満島神社～南の森神社	10月11日12日
10 中井侍ネリコミ	長野県	天竜村中井侍	不生・小高	三ヶ所の神社	11月23日
11 坂部掛け踊り	長野県	天竜村	坂部	伽藍様・秋葉山	8月14日
12 向方念仏踊り	長野県	天竜村	向方	長松寺～マトウサンバ	8月14日16日
13 大河内念仏踊り	長野県	天竜村	大河内	新盆家・愛宕様	8月14日・16日
14 牧之島念仏踊り	愛知県	豊根村三沢	牧之島	公民館・無縁供養塔	8月16日
15 粟世念仏踊り	愛知県	豊根村三沢	粟世		8月16日
16 山内念仏踊り	愛知県	豊根村三沢	山内	堂の庭	8月14日
17 川宇連念仏踊り	愛知県	豊根村	川宇連 (かわうれ)	中央公民館	8月16日
18 大沢念仏踊り	愛知県	豊根村	大沢	踊り場	8月16日
19 古戸念仏踊り	愛知県	東栄町	古戸	普光寺・六地藏	8月14日
20 粟代念仏踊り	愛知県	東栄町	上粟代	歓喜寺	8月14日
21 足込念仏踊り	愛知県	東栄町	足込	川野家～慶泉寺	8月15日16日
22 月念仏踊り	愛知県	東栄町	月	清平寺	8月13日
23 柿野念仏踊り	愛知県	東栄町	柿野	公民館	8月1日14日
24 三瀬念仏踊り	愛知県	東栄町	三瀬	熊野神社・山の神・新盆の家	8月1日7日13日15日
25 下田長養院	愛知県	東栄町下田	長養院	長養院	
26 田口本町はねこみ	愛知県	設楽町	田口本町	福田寺・新盆	8月14・15日
27 平山はねこみ	愛知県	設楽町	平山 (黒倉)	新盆の家	8月14日
28 神田はねこみ	愛知県	設楽町	神田 (かだ)	東泉寺	8月15日
29 清崎はねこみ	愛知県	設楽町	清崎	多宝寺	8月14日

坂本 要：仏教民俗としての念仏踊り

30	小代はねこみ	愛知県	設楽町	小代（こじろ）	新盆	8月14・15日
31	塩津はねこみ	愛知県	設楽町	塩津	薬師様・新盆・天神	8月13～16日
32	栗島はねこみ	愛知県	設楽町	栗島	竹栄寺	8月14日
33	田峰念仏踊り	愛知県	設楽町	田峰	日光寺・田峰観音	8月14日～17日
34	四谷はねこみ	愛知県	鳳来町	四谷身平橋	海源庵・各家	8月13日
35	一色放下	愛知県	鳳来町	一色	洞泉寺	8月14日
36	布里放下	愛知県	鳳来町	布里	御堂橋～普賢寺	8月15日
37	塩瀬放下	愛知県	鳳来町	塩瀬	高月寺	8月15日
38	名号放下	愛知県	鳳来町	名号	石雲寺	8月14日
39	田代念仏踊り	愛知県	作手村	田代	徳林寺・新盆	8月14日16日
40	岩波念仏踊り	愛知県	作手村	岩波	寺・新盆	8月14日
41	黒瀬念仏	愛知県	作手村	黒瀬	堂・墓・新盆	8月14日
42	阿蔵はねこみ	愛知県	下山村	阿蔵	福寿院・須賀神社	8月14・15日
43	大海放下大念仏	愛知県	新城市	大海（おおみ）	辻・泉昌寺	8月15日
44	信玄原火おんどり	愛知県	新城市	信玄千人塚	千人塚	8月15日
45	乗本万灯	愛知県	鳳来町	乗本万灯山	万灯山	8月15日
46	市川なべづる万灯	愛知県	新城市	市川万灯山	万灯山	8月15日
47	石座神社笹踊り	愛知県	新城市	大宮	石座（いわくら）神社～大宮公民館	10月11日
48	豊島大念仏	愛知県	渥美郡田原町	豊島	光明寺	8月15日
49	西浦上組大念仏	静岡県	水窪町奥領家池島	西浦上組	永泉寺・愛宕様	8月8日・15日・16日
50	西浦中組大念仏	静岡県	水窪町奥領家	西浦中組	永泉寺	8月8日・14日・16日
51	西浦下組大念仏	静岡県	水窪町奥領家	西浦下組	永泉寺・阿弥陀堂	8月8日・14日・16日・24日
52	長生大念仏	静岡県	水窪町	長生	金吾八幡	8月16日
53	小畑大念仏	静岡県	水窪町	小畑	付属寺	8月14日
54	永福寺施餓鬼	静岡県	水窪町	小畑		8月10日
55	神原大念仏	静岡県	水窪町	神原	薬師堂・永福寺	8月10日・16日
56	水窪本町念仏	静岡県	水窪町	本町	各家	8月14日
57	向市場大念仏	静岡県	水窪町	向市場	善住寺～川原	8月14日・16日
58	上村大念仏	静岡県	水窪町	上村（うえむら）	庚申・公民館	8月15日
59	向島大念仏	静岡県	水窪町	向島	阿弥陀堂	8月16日
60	竜戸大念仏	静岡県	水窪町	竜戸	学校場・不動・水神・川原	8月16日
61	大野大念仏	静岡県	水窪町	大野	堂庭・阿弥陀堂・薬師堂	8月14日・16日
62	草木大念仏	静岡県	水窪町奥領家	草木		8月6日14日16日
63	大嵐大念仏	静岡県	水窪町大嵐（おおぞれ）	時原	新盆の家	8月14日・16日
64	地双大念仏	静岡県	水窪町	地双（瀬戸尻・小又・諸久頭）		8月14日・16日
65	有本大念仏	静岡県	水窪町	有本	学校場	8月14日・16日
66	水窪念仏踊り大会	静岡県	水窪町	水窪運動場		7月31日
67	遠州大念仏	静岡県	天竜市熊	熊平	六所神社・庚申・各家	8月13日～15日
68	遠州大念仏	静岡県	天竜市熊	柴	新盆	8月14・15日
69	遠州大念仏	静岡県	天竜市	阿寺	各家	8月14日（7月14日）
70	懐山大念仏	静岡県	天竜市	懐山	寺	8月14日・16日
71	遠州大念仏	静岡県	浜松市	滝沢	新盆・地藏堂	8月13日24日
72	遠州大念仏	静岡県	浜松市	上島	新盆・宗円堂	7月13日～15日
73	遠州大念仏	静岡県	豊岡村	大平	円通寺	8月13日14日
74	大代大念仏	静岡県	榛原郡金谷町	大代	公民館	8月14日
75	関町瑞光寺文書	三重県	関町関	瑞光寺		
76	新野瑞光院	長野県	阿南町	新野		
77	久我光円寺文書	三重県	関町久我	光円寺		
78	河鹿掛き踊り	岐阜県	八幡町	河鹿（かじか）	井上家～河鹿神社	9月8日（隔年）
79	寒の水掛け踊り	岐阜県	明宝村	寒の水（かのみず）	白山神社	9月8日